

国登録有形文化財

種別	名称	所在地等
有形文化財	朝日屋原薬局主屋 ほか6件	本町2-4 内部は非公開

県指定文化財

種別	名称	所在地等
民俗文化財	田子山富士塚	本町2-9 敷島神社境内

市指定文化財

種別	名称	所在地等
記念物	いちりづか 一里塚	中宗岡3-1
有形文化財	いろは樋の大榎	本町2-1
有形文化財	行屋稲荷の庚申塔	柏町3-5
有形文化財	たてひかわ神社の図像板碑	柏町3-6 館水川神社 一般見学はできません
有形文化財	せんこうじ 千光寺の鱗口	上宗岡2-2 千光寺 ※要事前申込み
記念物	つくだづみ 佃堤	上宗岡2-9 他
有形文化財	げんくじゅうしゅうねんいんしゅうにいくらごりたてむらけんみずりゅう 元禄十四年武州新座郡館村検地水帳全9冊 及び畑方御検地野帳6冊	郷土資料館 中宗岡3-1-2 Tel.048(471)0573 開館時間/午前9時30分～午後4時30分 休館日/月曜日(祝休日は開館し火曜日休館)、年末年始 ※変更あり、ご確認ください。
有形文化財	ぶんかじゅう一年の引又宿絵図	同上
有形文化財	ちやうせん 長勝院の版鐘	同上
民俗文化財	しやうふた 菅浦沼の三面六臂の馬頭観音	宗岡6133-1 荒川河川敷
民俗文化財	はつらふ 寶輪寺前の馬頭観音文字塔	柏町1-10 寶輪寺入口
有形文化財	たいにんどう 大日堂の梵鐘	下宗岡3-15
民俗文化財	こくうざん 虚空蔵菩薩	中宗岡4-4
民俗文化財	あきあき 東明寺の庚申供養地蔵	本町1-3
有形文化財	ほしのはんろうもんじつ 星野半右衛門日記	郷土資料館
記念物	しろやま 城山貝塚	柏町3-3
有形文化財	いろは樋絵図	非公開 複製 郷土資料館
有形文化財	しろいぶ 白井武左衛門供養塔	下宗岡2-12
有形文化財	ぢぞう 地蔵菩薩立像	下宗岡2-3
記念物	ちやうしやういん ちょうざくら ちょうざくら	柏町3-10
有形文化財	たてひかわ神社修復記念碑	柏町3-6 館水川神社
有形文化財	たてひかわ 館村日記	非公開 解説文は、郷土資料館 いろは遊学図書館・柳瀬川図書館
有形文化財	さんざい 産財氷川神社本殿	中宗岡2-29
有形文化財	ふるま 旧村山快哉堂	中宗岡5-1
有形文化財	にしはら 西原大塚遺跡出土の動物形土製品	埋蔵文化財保管センター 柏町1-20-19 Tel.048(473)8157 開館時間/午前9時～午後5時 休館日/土・日曜日、祝休日、年末年始(12月29日～1月4日) ※団体見学は事前連絡
有形文化財	にしはら 西原大塚遺跡17号方形周溝墓出土遺物	同上
有形文化財	しろやま 城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点	同上
有形文化財	しろやま 城山遺跡241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点	同上
民俗文化財	はらふ 羽根倉富士塚	上宗岡4-27 浅間神社

平成23年9月初版発行  
平成25年9月改訂版発行  
志木市教育委員会 生涯学習課  
〒353-0002 志木市中宗岡1-1-1  
Tel. 048(473)1111 FAX 048(474)4462  
URL <http://www.city.shiki.lg.jp/>  
E-mail syogai@city.shiki.lg.jp



生涯学習  
シンボルキャラクター  
「エルちゃん」

# 志木市 文化財・歴史ガイド



志木の歴史を楽しまう！

## コース案内

- 野火止用水と引又宿をたずねて
- 館村を歩く
- 宗岡の里をたずねて
- 治水の歴史をたずねて

## ◆テーマ散策

水と生きる 水を活かす

## 明治43年(1910)大水害の水位

### マップ①



明治43年、荒川が氾濫し、甚大な被害となった。志木市立郷土資料館の脇に、当時の大水害の水位を示す表示板が設置されている。

**テーマ散策**  
水と生きる 水を活かす  
水害への備えと利水という視点から  
上・中・下宗岡を中心に歩きます。

**水塚** 土盛りをした上に蔵などを設け、水害に備えたもの。今も宗岡のあちこちで見ることができる。



## 宗岡惣圍堤

### マップ参照

荒川、新河岸川にはさまれた宗岡は、水害に悩まされ、近世初期には、荒川大圍堤・新河岸川除堤と佃堤・新田場堤が連続した村全体を囲む堤がつくられた。現在も、その様子を見ることができる。



中宗岡5丁目 旧三日月湖付近から見た風景

## 樋門

### マップ②③

堤防に水路を通すためのもの。通常は、用水・悪水(排水)を堤外に流し、川の増水時には扉を閉めて村を守った。明治時代につくられた樋門に、宗岡第二中学校の籠寫門樋、宗岡第四小学校近くの北美以樋などがある。



籠寫門樋

## 松平信綱・白井武左衛門頌徳碑、白井氏治水碑

### マップ④



野火止用水を開削した松平氏、いろは樋・佃堤・新田場堤を作った白井氏への感謝を表すため、明治末期に村民が建てたもの。下ノ水川神社境内に建てられている。

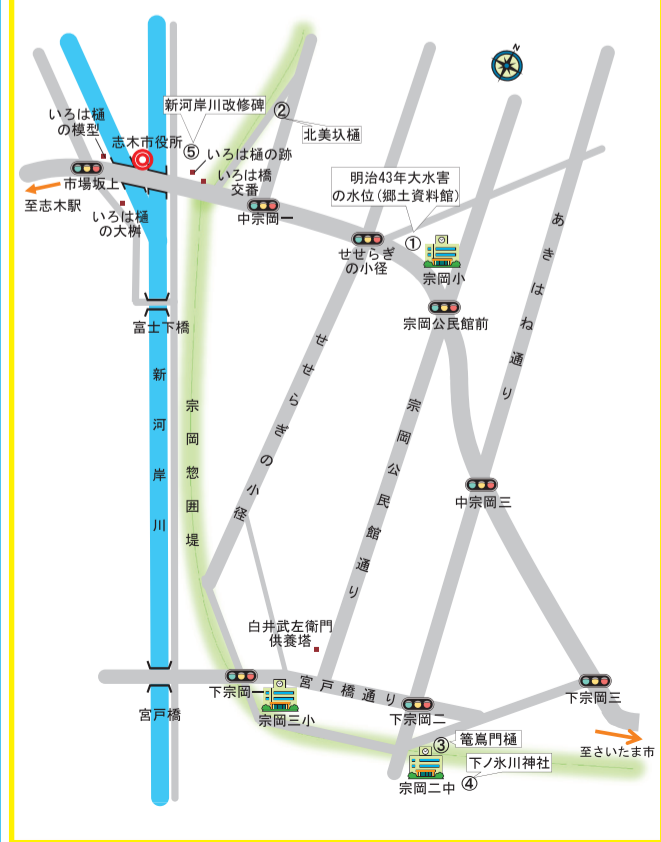
## 新河岸川改修碑

### マップ⑤

大正10年(1921)から9年をかけて行われた新河岸川の改修を記念して昭和6年に建てられた。改修の様子や改修に尽力した斎藤祐美(治水翁)について記されている。



## テーマ散策 マップ



## 上の水車跡 本町6-1

### マップ A①



江戸時代、野火止用水の流末に位置する引又宿には、上の水車、中の水車、河岸の水車(下の水車)と呼ばれる3台の水車があった。

## 敷島神社 本町2-9

### マップ A②



引又地区の住民が地区の鎮守として信仰していた村山稲荷の他、星野稲荷、水神社を浅間社に合祀し、明治41年に浅間社境内に創建された。

## 引又河岸場跡 本町2丁目付近

### マップ A④



明治7年(1874)以降は志木河岸。新河岸川の河岸場の中でも最も栄えた河岸場の一つだったが、河川改修により、昭和5年にその役目を終えた。

## 田子山富士塚 敷島神社境内(県指定文化財)

### マップ A③



明治5年6月築造。高さ8.5m、円周125.3m、斜度39度。石造遺物の数・種類・細工などが大変優れており、当時の引又河岸や富士信仰を知るうえで貴重な文化財である。

## いろは樋の大榎 本町2-1(市指定文化財)

### マップ A⑤



いろは樋は野火止用水を対岸の宗岡村へ引くために、寛文2年(1662)に宗岡村の領主岡部忠直の家臣白井武左衛門によって新河岸川の上に掛けられた。大榎は、用水の水を一度ためておくために使われた。この大榎は明治31年に造られたもの。木製から煉瓦積みとなり、樋も木製から鉄管となって川底に埋設された。

## Aコース マップ



## 朝日屋原薬局(非公開) (国登録有形文化財)

### マップ A⑥



主屋を含む全7棟が国登録有形文化財。明治20年代に創業された薬局。明治45年建築の店舗兼住宅の主屋をはじめ明治から昭和初期の建物構成がよく残されている。

## 旧西川家潜り門 本町1-1

### マップ A⑦



西川家の中庭に建てられていた棟門。扉や柱に武州一揆の刀傷が見られることや伝承から慶応2年(1866)頃の建築と推定されている。

## 旧村山快哉堂 中宗岡5-1(市指定文化財)

### マップ A⑧



明治10年(1877)に建築された木造二階建て土蔵造りの店蔵で、本町通りに屋敷を構え、各種家傳薬を製造、販売する薬店であった。平成7年に解体後、平成13年に現在の場所に復元された。



てんじんしゃ  
**天神社** 中宗岡 1-4 **マップ** C①



創建年代不詳。境内にある「水神宮」の碑文は、龍眠門下の高弟三眠の一人神山雲眠の筆による。

どうこうじゅごうかひ  
**道興准后歌碑** 上宗岡 2-3 **マップ** C③



文明18~19年(1486~1487)の頃、関東各地を遊歴した道興准后が、この地で詠んだ「夕けぶり あらそう暮を見てけりわが家々の むね岡の宿」の歌碑。

せんこうじ  
**千光寺** 上宗岡 2-2 **マップ** C⑥



新義真言宗智山派。天慶4年(941)創建と伝わり、市内の寺院では最古の歴史を持つ。聖観世音菩薩像は、33年に一度の開帳。また、鰐口は市指定文化財(応永25年(1418)の銘あり)。

むじな橋(開化橋)  
上宗岡 1-5 **マップ** C②




かつて、橋のたもとにむじな親が住んでいたため、この名がつけられた。

しゅくひかわじんじや  
**宿氷川神社** 上宗岡 2-2 **マップ** C④



上ノ氷川神社ともいう。承暦2年(1078)に千光寺住職兼大僧都善海が武蔵国一の宮氷川神社(現さいたま市大宮区)を分祀したものといわれている。

つくだつみ  
**佃堤** 上宗岡 2-9、2-11(市指定文化財) **マップ** C⑤



上流からの水を防ぐ目的で、正保年中から寛文のはじめ(1644~1662)頃に、岡部氏の家臣白井武左衛門により築かれた。

だいせんじ  
**大仙寺** 上宗岡 2-7 **マップ** C⑦



曹洞宗大泉院(さいたま市)の末寺。大泉院の第5世であった喜翁良悦大和尚の開山。弘治2年(1556)の創建と伝わる。

せんげんじんじや はねくらふじだけ  
**浅間神社・羽根倉富士嶽** 上宗岡 4-27(市指定文化財) **マップ** C⑧

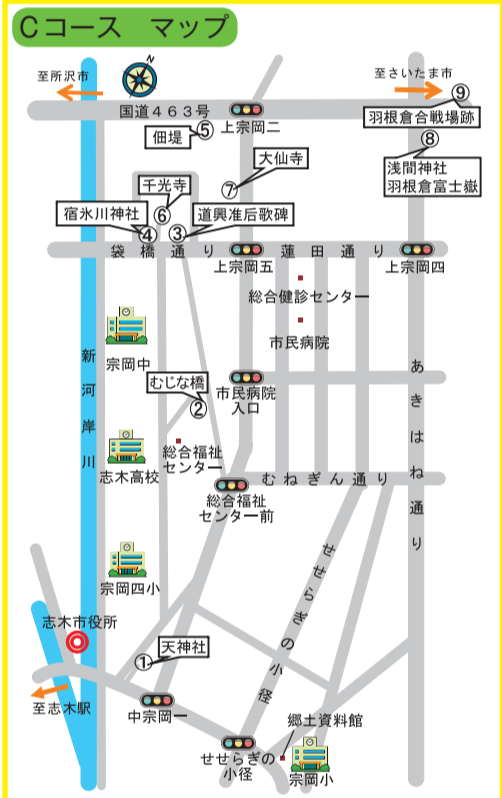


浅間神社は、鎌倉時代の創建と伝えられる。羽根倉富士嶽は、明治時代に築造された富士塚。二度の移築を経ているが明治時代の石造物もよく保存されている。


はねくらかつせんじやあと  
**羽根倉合戦場跡** 羽根倉 **マップ** C⑨



観応2年(1351)に高麗彦四郎経澄(足利尊氏方)と難波田九郎三郎(足利直義方)の戦いがあった。




せんじゅどう  
**千手堂** 柏町 5-18 **マップ** B①



創建年代は不明だが、本尊が鎌倉末期から室町中期の作と伝えられ、古くは、大受院という名の七堂伽藍を擁する大寺院であったらしい。

しろやまかいづか  
**城山貝塚** 柏町 3-3 (市指定文化財) **マップ** B②




この貝塚で見られる貝は、ヤマトシジミが主体をなし、次にマガキ、ハマグリが続く。縄文式土器が出土し、諸磯式期の集落にも接しているため、縄文前期の遺跡と思われる。

ちゅうしゅういんはたざくら  
**柏町 3-10 (市指定文化財) マップ** B④



推定樹齢400年以上。おしべの一部が花卉状に変わった旗弁をつけるヤマザクラの一種で、新種として確認された栽培品種。

たてひかわじんじや  
**館氷川神社** 柏町 3-6 **マップ** B⑥



延暦年間(782~806)に坂上田村麻呂によって勧請されたと伝わる。近世を通じて、館本村、中野、引又、北野(新座市)、針ヶ谷(富士見市)の5か村の総鎮守であった。

とうみょうじ こうしんくうじぞう  
**東明寺の庚申供養地蔵** 本町 1-3 (市指定文化財) **マップ** B⑧



寛文7年(1667)造立。光背に「武勇新倉郡墓保村」とあり、引又村に「墓保」の字が使われている唯一のもの。

ちゅうしゅういん  
**実蔵院** 中宗岡 1-15 **マップ** D②



元和3年(1617)に沼で網に引かかった阿弥陀如来を本尊として創建したといわれている。明治7年(1874)の学制の施行時には宗岡学校(小学校)として使用された。

**Bコース**  
館村をあるく  
古代・中世のロマンを求めて  
城山貝塚、柏の城跡などをたずね、館村の成り立ちを探るコース

かしわ しるあと  
**柏の城跡** 志木第三小学校付近 **マップ** B③



関東管領山内上杉家の家臣大石氏の戦国時代初期からの居館といわれている。本郭は志木第三小学校校地付近と推定され、昭和60年の発掘調査では大堀の跡が発見され、柏の城の実在が明らかになった。

ほうどうじ  
**寶幢寺** 柏町 1-10 **マップ** B⑤



新義真言宗智山派。創建は、建武元年(1334)ともいわれるが、定説はない。江戸時代には三代將軍家光が鷹狩りの際休息したのが機縁となって御朱印地を賜った。また、「お地藏さんとカップ」[ほっぺたの黒いお地藏さん]の伝説が伝わっている。


ぎょうやいなり こうしんどう  
**行屋稲荷の庚申塔** 柏町 3-5 (市指定文化財) **マップ** B⑦



正保5年(1648)造立。石幢の六面に六地藏を配した歴史的価値が高いもの。




さんざいひかわじんじや  
**産財氷川神社** 中宗岡 2-29 **マップ** D⑧



中ノ氷川神社ともいう。永享年間(1429~1441)に武蔵国一の宮氷川神社を分祀したものといわれている。本殿は、市指定文化財。明治14年に竣工、鯉の滝登りや登り竜などの素晴らしい彫刻が施されている。

いちりづか  
**一里塚** 中宗岡 3-1 (市指定文化財) **マップ** D⑨



宗岡小学校の裏を通っていた奥州街道(甲州道ともいう)に設置されていたもの。かつては榎の大木が植えられていた。



しょうぶぬまさんめんろつび ぼとうかんのん  
**菖蒲沼の三面六臂の馬頭観音** 大字宗岡 6133-1 (市指定文化財) **マップ** D⑦



天和3年(1683)、宗岡村の念仏組が念仏講の主尊として造立したもの。刻像であり三面六臂の像容をとった姿は、美術的にみても大変価値が高い。

だいにちどう  
**大日堂** 下宗岡 3-15 (市指定文化財) **マップ** D⑥




貞和2年(1346)10月に戦乱を逃れてこの地に来た落武者等が創建したと伝わる。梵鐘は、市指定文化財。文政8年(1825)の鋳造。

しものひかわじんじや  
**下ノ氷川神社** 下宗岡 4-7 **マップ** D⑥



観応2年(1351)に上ノ氷川神社にあった茶臼を二つに分け、その上石を神殿の床下に埋め、その上にご神体を祀ったのがはじまりといわれている。このため北面して上ノ氷川神社と向き合って建てられ、村を守るとされている。

いろいろは樋の跡  
中宗岡 1-3 **マップ** D①



寛文2年(1662)、白井武左衛門によって、野火止用水を新河岸川の上を渡して宗岡地区の灌漑に使用するために、いろは樋がつけられた。48の木樋をつないだので「いろは樋」と呼ばれた。鉄管は、明治30年代に、樋に代わって川底に埋設されたもの。

くわくそうぼさつ  
**虚空蔵菩薩** 中宗岡 4-4 (市指定文化財) **マップ** D③



元禄12年(1699)造立されたもの。昔から眼病の人々に厚く信仰されてきた。

しらいびざえもんくろうどう  
**白井武左衛門供養塔** 下宗岡 2-12 (市指定文化財) **マップ** D④



文化10年(1813)に建立された供養塔。白井武左衛門は、江戸時代初期に上・下宗岡村を治めていた旗本岡部忠直の家臣で、上・下宗岡村を直接治めていた。在任中、いろは樋の架設・佃堤の築堤など、宗岡村の生産基盤の整備に尽力した。

**Dコース**  
治水の歴史をたずねて  
中宗岡・下宗岡地区を中心に歩き、水害とのかかわる歴史をふりかえるコース